



Tokyo Rinkai West Rotary Club

# 東京臨海西 ロータリークラブ

第2580地区(東分区)



クラブ会長ターゲット

「ロータリアンとしての自覚」  
"Awareness as a Rotarian"

2022-2023年度 東京臨海西ロータリークラブ会長

大星 太郎



国際ロータリーテーマ

「イマジン ロータリー」  
"Imagine Rotary"

2022-2023年度 国際ロータリー会長

ジェニファー E. ジョーンズ

2023年3月17日[第114回]

創立：2018年11月22日

会長：大星 太郎

副会長：三橋 晶

幹事：継岩 憲二

会報担当：菅秀平/本島厚

3月17日の卓話

「国際奉仕フォーラム」  
国際奉仕委員長  
北林貴臣 委員長

3月7日の出席率

会員在籍者数 41名  
会員出席者数 26名  
会員欠席者数 15名  
本日の出席率 63.41%

3月31日の卓話

「ひとり親家庭の支援について」  
江戸川区子ども家庭部児童家庭課  
課長 丸田綾子 様

## 《2022-2023年度 東京臨海東RC創立 27周年記念合同例会 第113回例会報》

2023年3月7日(火)東武ホテルレバント東京「錦の間」

司会：東京臨海東RC 伊勢亀SAA委員長

- 点鐘：東京臨海東RC 播磨義人 会長
- 東京臨海RC 杉浦孝浩 会長
- 東京臨海西RC 大星太郎 会長
- 東京臨海北斗RSC 小松啓祐 議長



- 国歌斉唱
- ロータリーソング「奉仕の理想」
- 「四つのテスト」唱和
- 「職業奉仕の12章」唱和

- 来賓紹介
- 東京臨海ロータリークラブ
- 会長 杉浦孝浩様
- 副会長 酒井教吉様
- 幹事 井上晴貴様



東京臨海西ロータリークラブ

- 会長 大星太郎様
- 副会長 三橋 晶様
- 幹事 継岩憲二様

東京臨海北斗ロータリー衛星クラブ

- 会長 小松啓祐様



■来賓祝辞

- 東京臨海RC 会長 杉浦孝浩様
- 東京臨海西RC 会長 大星太郎様



■乾杯：東京臨海東RC 今西勇 直前会長

- 会長報告・スピーチ：大星太郎会長
- バギオ基金感謝状贈呈（栗山義広会員）

- 幹事報告：継岩憲二幹事
- 本日はありませんでした

- 委員会報告
- 本日はありませんでした

- 出席状況報告：佐藤太基会員
- ⇒詳細1頁バナー下の出席状況報告欄にて

- ニコニコBOX報告：熊倉貴志会員
- (ご意向)東京臨海東RC創立27周年記念例会おめでとうございます：齊藤実様  
(東京臨海RC・当クラブ特別代表)
- (ご意向)東京臨海東RC創立27周年記念例会おめでとうございます。合同例会盛り上げて参ります：高橋映治様（ガバナー補佐・東京臨海RC）
- (ご意向)会員の皆様、今年度も4ヶ月を切りました。皆様と一緒にロータリーライフを楽しん

で参りたいと思いますので引き続き、ご協力のほど、宜しくお願いします！：

当クラブ三役

- (ご意向)東京臨海東RC創立27周年記念例会おめでとうございます。合同例会盛り上げて参ります：栗山会員
- (ご意向)熊倉さんに素敵なスーツを作ってもらいました。ありがとうございました：西野会員
- (ご意向)東京臨海東RC創立27周年記念例会おめでとうございます。合同例会盛り上げて参ります：油井会員
- (ご意向)おめでとうございます：北林会員

平井会員、二瓶会員、島崎会員、熊倉会員  
米井会員、岩崎会員、岡田会員、飯塚正裕会員  
清水会員、佐藤会員、橋会員、高橋会員

**【21件 81,000円 今年度累計 1,711,000円】**

■本日の卓話

持続可能な観光地づくり

「墨田区の環境・社会・経済などが学べるスタディツアー」

一般社団法人墨田区観光協会

理事長 森山育子様（東京臨海東RC）

東京臨海東ロータリークラブの森山でございます。今日は江戸川区の方が多く、墨田区の観光についてご紹介をさせていただければと思います。持続可能という、SDGsという言葉が世の中に出回ってもう数年経っているかと思うんですけども、持続可能な観光地という取り組みがここ数年ずっと続いています。現在墨田区でどのような取り組みをしているかということの1つとして、スタディツアーの造成ということについてご紹介させていただきます。

項目としては大きく3つ。墨田区が目指す持続可能ということはどういうことか？2つ目が墨田区の産業の歴史と企業の取り組み、そして3点目として観光協会が作るスタディツアーということでご紹介をさせていただきます。2021年、墨田区はSDGs未来都市と自治体SDGsモデル事業に選定されました。

同じ年に江戸川区の方も同じように選定されたかと存じます。それに伴いまして墨田区としては、取り組みをスタートしております。墨田区が目指す、持続可能な墨田ということで、大きな柱は社会、経済社会、そして環境という3つの柱を振興を軸としたプロトタイプの都市を目指していくということで、この3つの柱を元に、様々な取り組みを進めております。産業と経済、そして観光がどのように結びついていくのか、そして墨田区は観光の柱にものづくりを1つ置いております。そのものづくりとい

う中で、墨田区の産業がどのような歴史を歩んできたかということ、次の形でご説明をさせていただきますと思います。墨田区のものづくりは明治時代に民事産業をベースとしてスタートしています。なぜ民事産業とあえて言ったかというと、この表を見ていただくと分かる通り、東京都内の今現在1番町工場が多いところは大田区です。これ平成28年の数字なので、若干変動はでてるかと思いますが、墨田区は2番目なんですね。大田区と墨田区の違いが何かというと、大田区はよくあの下町ロケットとかであるように、ネジとか金属加工と言われている比較的カンジと言われている、観光業っていうんですかね？あの大きなロケット飛行機。そういったものの部品を扱っていく。逆に墨田区は生活必需品、繊維だったり、印刷、そして玩具、石鹸と言われている日常品が主な産業が多いからです。それがその隣の表で墨田区における各町工場の様々な業種という物の表になっております。

近代産業における墨田区が発展して行ったものとして、3つの利があります。1つ目の利は人の利です。人の利とは何かというと、江戸時代に多くの職人が移り住んできました。それは1600年代に起こった明暦の対価を機に、初めて隅田川を渡って、本所深川地区が江戸になったというところから、神社、仏閣や、大きな大名屋敷が移ってきた時に一緒に御用聞き職人さんたちが移ってきて、伝統工芸やさしものなど様々なものが発達していきます。そして合わせてこの大名屋敷が移ってきたことで、下級武士も含めて移ってきました。「下級武士達は何をしていたか」というところは後でご説明します。2つ目が水の利です。隅田川や荒川、そして内河川と言われている、水が大変豊富だった。

そして3つ目が地の利です。地の利としては大名屋敷があったことで、明治維新、屋敷が取り壊されました。その跡地が広大な敷地があったということ。それからやはり今でもそうですが、成田は羽田と言われているところから見ると中間地点に当たります。



「都心に近い、空港に近い、様々な所に近い。」というところの地の利があったということで、この3つ

の利があって初めて墨田区の近代産業の発展に寄与してきたと言われております。現在もこの引き継がれる江戸の伝統文化、今も約40人近い職人さん達が様々な工芸品を作っています。1つ先ほどお話しした通り、大名屋敷の跡地というのがやはりそこにあった。この跡地に様々な工場ができてきました。こちらもそうですね。現在の横網町公園にあるところは、大きな資材置き場になっていました。お竹蔵と言われていたところがございます。近代工業の発祥の地、墨田ということで、様々な工場が発祥しています。

例えばカネボウ、鐘ヶ淵紡績が鐘ヶ淵のところに生まれたり、ライオン、そして花王、日本初の東京コンクリート工業だったりとかですね、Tシャツの発祥の久米繊維さんとかですね。様々な日本初というものがこの地で生まれています。これは何か分かりますでしょうか？皆さんから見て、左側これは被服廠跡です。横網町公園にございます、東京都慰霊道の前になりますね。その他にも、様々な繊維工業が発達していった。それはなぜ発達していったのかということなんです。1つは皆さん、江戸時代、下級武士が内職で何をしていたか。時代劇では傘張りをしている姿をご覧になったかと思いますが、若い方々に時代劇も見られてないかと思うんですけども、傘張りをされてる姿が多いんですが、実は編み物をして、ももひきとかを実は編んでいたと言われてい

ます。かなり手先が器用だったということもあり、下級武士の人達がそういうものを担っておりました。幕末になると、西洋式の軍服が取り入れられて、手袋や靴下、そういったものも作られていたと言われております。明治維新になって、これらの下級武士が失業することになります。武士を辞めろと言われて、「じゃあ、自分は何の仕事をするのか」と言われた時に、先ほどお話ししたように大名屋敷の跡に様々な工場が出来上がって、手先は器用な人達がいたので、繊維産業が発達していきます。メリヤス工場というものが、たくさん両国界隈に立ちました。メリヤスというのはポルトガル語とスペイン語の造語らしいんですけども、それが発達していきます。明治大正になって先ほどもお話ししたように、横網町公園の所に軍の被服廠ができます。被服廠って何かというと軍服を作る場所です。その軍服を作る工場が抜けた跡地に、ちょうど関東大震災がございました。その跡地のところに、みんな関東大震災の時に逃げ込んで、多くの方たちが亡くなったと、いう場所がございます。そういう形で、朝鮮戦争があって、さらにこの糸へん景気と言われているような形で繊維産業は発展していくんですが、時代の趨勢で、少しずつ大工場は中国や海外の方に移していったことで少しずつ衰退していきます。

新しく繊維業界として、ホリゾンさんというのが実はございまして、カシミヤヤギの飼育から製品化するまで一貫精算されている所が墨田区にはござい

ます。内モンゴル地区にカシミヤヤギの放牧地を持って、そこで生育をし、糸を紡いで、墨田区で縫製をしているという会社でございます。また、先ほどお話をした日本初のTシャツを作った久米繊維さん、こちらにも基本的には海外では販売しないということで、国内でのみ販売をされています。

次に皮ですね、皮革産業、もともとは浅草エリアが主だったところが、明治維新になって、荒川流域の方に移ってきます。今お見せしているハッピーピックプロジェクトというのがございまして。とある会社さんなんですけれども、後でお見せするんですが、エルメスの皮を作られてる会社さんがございます。エルメスの皮を作るに当たって、視察が来られました、まず1つはクロムを使って皮をなめすんですけども、そうすると排水が有害になるということで「クロムを使ったものは駄目だ」ですから自然に優しいなめしの素材を使わなくてははいけない。これから皮を生産するにあたっては豚が幸せな環境で育ってないといけない、墨田区にはもちろん養豚場はありません。ですから、地方の養豚場の生育状態まで全部視察されたそうです。使われている皮の豚がどういう形で生育をされてるか。そこまで行って、「この状態だと取引はできない」ということで、一度断られたと聞いています。その上で新たな養豚場探して自然環境で育っている豚を生育してるところと契約をし、幸せな豚からはいい皮ができる。クロムは使わず、自然の天然素材を使った皮のなめしをしてさらに太陽光発電を使っている工場、川を精製していくというような、それを含めてハッピーピックプロジェクトということで墨田区内の事業者さん数社がこの取り組みに参加をしています。

知る人ぞ知る、墨田区八広東墨田地区は皮の町という形になっています。今言った会社さんがこの山口産業さんです。もちろんOEMですので、自分のところでエルメスを作っているということは大声では言えません。言えませんが、そのような取り組みをしながら、現在国内だけではなく、海外からの取引を広く取り組まれていらっしゃると思います。合わせて、このスコッチグレインさん。皆さん履かれてる方いらっしゃるかもしれませんが、こちらにも元々浅草から墨田区の方に移ってこられた会社さんですが、このスパイダーという靴なんですけれども、38枚の革の端切れを使って作られた靴でございます。それぞれの靴を作る時に端切れができます。そのような端切れをなんとか活用できないかということで、38枚の端切れのパーツを組み合わせて作られた靴でございます。墨田区の墨田モダンの中でベストワンに選ばれた商品でございます。

次は石鹸です。日本での石鹸産業は横浜からスタートしています。横浜である方が作られたものなんです、それが墨田区の方に大きく移ってきます。1876年に向島に鳴春者さんという会社がスタートします。この会社からですね。実はライオンと花王に分離していきます。

1人は石鹸炊き名人だった方が、今の花王さんの長瀬商店の方に転職をされて、そこで石鹸技術を伝授しながら長瀬商店、そして花王石鹸という形に変わってきます。もう1人支配人だった小林さんという方がライオンのもともとの発祥である小林富次郎商店という形になって、ライオンに至っていくと。合わせて、1900年代に入ると、資生堂さんってもともと銀座で、実は薬局屋さんだったんですね。石鹸を作るということで、今の曳舟文化センターのあたりに、資生堂の工場があり、資生堂石鹸を作っています。これらはやはり川があったということと、1番大きいのはですね、先ほど皮の話をしました。皮をなめす時に出る動物の油、石鹸って、もともとその動物の油脂から精製されるんですね。そういう意味で油脂がたくさんあったということで石鹸産業が発達していく。で、油脂でベトベトになった手をその石鹸で洗うと、自分で自分の手を洗うみたいな、そんな形が産業として墨田区はスタートしてっております。

墨田区としては、新墨田モダン、もともと墨田モダンということで、新しい墨田のブランディングをしていこうということで、10数年前にスタートしました。この墨田モダンをなぜせ、ブランディングとしてスタートしたかということ、実は墨田区の産業の大半がOEMです。今、大手メーカーからの下請けとして様々な物を作っています。例えば革製品で言うとBMWの革シートを作っている会社さんもありますが、それを公然と言えない。先ほどのエルメスの皮を作っていることも公然と言えない。でも、「自社ブランドを作っていきたい」「なんとか自分のところで自分の名前を売っていけるような商品を作りたい」ということで、「様々なクリエイターの皆さんとコラボレーションしていく商品を作っていこう」というところからスタートします。そういう中で10数年経って新しく新墨田モダンということを立て上げました。未来への約束を果たすということで、持続可能性、それから知恵を集めて新しい価値を作ろうということを含めてですね、「新しい墨田になろう」ただ単に物を認証するだけではなく、その取り組み自体を認証していくような活動にしようという形で進めました。合わせて、先ほど21年にSDGs宣言をした時に、区内の事業者、そして団体がSDGs宣言をしていこうということで、各社さん自分達はこんな取り組みをしているということで宣言をしてもらっています。現在50以上の団体がこの手を挙げていただいております。

私たち観光協会としては、そのような取り組みをしている企業を修学旅行生たちに紹介してきたということで、スタディーツアーをしっかりと作ろうと、これまでも修学旅行の体験を作ってきました。じゃあ「スタディーツアーって何？」というところなんです、墨田区の世界文化経済などを学べるスタディーツアーを作ろうと。流れとしては旅前・旅中・旅後という3つのプログラムです。

なぜこれをするかという、現在中学校や高校の指導要項が変わりまして、単なる修学旅行、昔は「ディズニーランドに遊びに行った」「大阪に遊びに行った」「京都で何かを見た」というだけでした。少し前までは何かしら将来、自分の将来を見せられるような経験をしようというものになりました。そしてここ直近で変わったのが、探求型と言われている修学旅行も授業の一環として行った先で、自分たちの町や自分の将来において、価値あるもの見つけていこうという形の取り組みに変わっています。その1つとして、私たちの事前学習。これから行く街について調べようとか、これから自分たちが体験するものについて事前に調べようというプログラム。そして2番目が現地に行って実際にその体験をする。そして、3番目として戻ってきてから、自分たちの町にそれをどう生かしていくのかとか、自分の将来にどう生かしていくのかということを学ぶための、この3本柱で修学旅行のツアーを造成していく。というところに、墨田観光協会としては関わってきたいということで、このプログラムを現在作っています。ただ、学習っていうと子供達はすごく嫌がるんですよ。

「えー！わざわざ修学旅行に行ってまで遊ぶことができないのか！」と。なので、今これライオンさんの子会社さんと取り組みを一緒にさせていただいているのが、謎解きゲームと一緒にこのプログラムをやるようとしています。「季節外れの転校生がやってきた！」というようなシチュエーションを作って、この子の目線で、様々な街を見ていくというようなストーリーなんです。実はこの最後のオチなんですけれども、実はこの転校生の修学旅行が終わった後にいなくなるんですね。何かと言うと「未来から来た転校生だった」「自分がいたその未来にはこのような伝統工業は残っていない」

「今、この時を大事にしなければ、将来20年、30年後にはこの伝統工芸はなくなってしまうんだ」と。「自分の世界はそんなものがなかった。だからみんな大切にしてくれ」という言葉を残していく。というようなプログラムに実はなっています。です。各所で体験するところのメモはちょっと少し変わっていきませんが、そのような形のプログラムになっています。

事実コロナ前の修学旅行の体験ツアーということで、墨田区にはスカイツリーなど様々な修学旅行生が実は何万と毎年来ています。その中から墨田区の体験を伝統工芸や町工場の体験をする学校が1番多い時で82校、約3500人ぐらい毎年いました。このコロナですっかりなくなりましたが、昨年の秋から少しずつ戻ってきていて、今年既に2000人を受け入れております。この後、年末まで過去最高の数字が見込まれるかなという形で現在取り組みをしています。

私たちはこの修学旅行誘致をするにあたって、実はこの場墨田区で待ってるだけでりません。旅行会

社と同じように各地方の実プロモーションに出かけています。しかも、ツーリズムEXPOだとか、旅泊などのプロモーションと合わせて、地方の旅行会社の方に出向いて行って、私たちの持っているコンテンツの売り込みをさせていただいてます。また、イースト東京ということで、墨田区だけではなく、スカイツリーを中心として台東区、江東区さんとも一緒に連携をしながら出かけていくという取り組みをさせていただいております。墨田区観光協会としての取り組みは様々なものがありますが、現在SDGsや持続可能という観点から、私たちができる取組の1つとして今日紹介をさせていただきました。どうぞご清聴ありがとうございました。

#### ■点鐘・閉会

東京臨海北斗RSC	小松啓祐議長(第77回)
東京臨海西RC	大星太郎会長(第113回)
東京臨海RC	杉浦孝浩 会長(第1268回)
東京臨海東RC	播磨義人 会長(第1192回)